

連続移住小説「ヒロとサキ」一話

下北沢の ヒロ

弘前
27. 5. 29
18~24



出演：コッセこういち Meri i
監督：玉田伸太郎 撮影：植本一子 音楽：トクマルシューゴ
制作：弘前市



hiro & saki 移り住む先、弘前。

《公開中》 <https://www.iju-navi.soumu.go.jp/onl/aomori/hirosaki/>
<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/kurashi/ijuu/index.html>

一話 下北沢のヒロ

I 下北沢

バイトをやめてきた。
下北沢駅の改札を出ると、駅前はいつものようにすごい人だ。
狭い道を行列のようにみんなが歩いている。
淡島通り方向に行こうとするが、なかなか前の人を抜けない。
こんなにかくさんの通行人がいるけれど、オレが今日バイトをやめたことを知っている人は誰一人いない。
当たり前だけれど。
前を行くカッパルの足並みに、オレの足並みが自然と揃ってしまふ。
数カ月前までは、前のカッパルみたいに、オレもサキといっしょに2人でこの道を歩いていたんだけれど。
こんなことを知っている人も誰一人いない。

当たり前だけれど。
バイト先の店長は「あ、そう。書類にサインしていてね」で、おしめいだった。
良かったとも思っているような、そっけない態度。
オレのやる気のない働きぶりだったら、そういう反応も無理はないだろう。
遅刻も多かったし。
引き留められるでも思っていたのか、お前！と自分でつつこんでみる。
角を2回曲がって裏道に入ると、さすがに人は減ってきた。
もうすぐ夕方になりそうな日差しだ。
影が長くなってきた。
鉢植えの背の高い植木が2、3本置いてある。民家風の店の前で立ち止まる。
ブックカフェ「伊十堂」だ。
ドアを開ける。
鈴がチリンと鳴る。
壁には木製の本棚が一面に備え付けてあり、色とりどりの背表紙がこちら

を向いて、お客を迎えてくれる。
ここはオレとサキが出会った場所であり、待ち合わせをした場所であり、メシを食った場所であり、くつろぎの午後を過ごした場所であった。
「やあ、ヒロ」と店長が挨拶してくる。
店長とは古くさい呼び名だが、なぜか店長願っている、こう呼んでいる。
「こんにちは、店長」
いちばん奥の席に進む。
「コーヒーね」
「ああ」
クッションのあまり効かなくなった椅子に座り、カバンの中から、しわの寄った茶色の封筒と小冊子を取り出し、テーブルの上に置いた。
封筒は1カ月前に届いたサキからの手紙。
小冊子は弘前市への移住情報をまとめた薄手のパンフレットだ。

II 手紙

「私、弘前に行く」と、サキが言い出したのは3カ月前のことだった。
突然だった。
オレと別れるつもりなのかと驚いたが、心のどこかで納得もしていた。
美術大学を出たオレは、アーティストとしてやっていくと決意し、就職はしなかった。
毎日毎日作品づくりに没頭していた。
しかし燃えていた期間は案外短かった。
つくっても、つくっても作品は評価されない。賞とも縁がない。
時間とお金をつぎ込んで、やっとの思いで開いた個展には、学生時代の友人しか来なかった。
才能がないのかな、オレ。だんだんそう思うことが多くなってきた。



生活費を稼ぐために、いくつかのバイトを掛け持ちしたが、本気で働く気にはなれなかった。
そのことは態度に表れていたのだろう。
バイト先の評判も悪く、親しい仲間もできなかった。
うまく世渡りする才覚もないかな。
そんな中で、サキだけが応援してくれていた。
「今は芽が出ていないけれど、このまま続けていれば、きっと将来認められるよ。ゴッホだって、ルソーだって、最後には認められたんだから」
「ふん、死んでからスゴイって言われてもしょうがないんだよ。今評価されたいわけ、オレは。現代美術の現代って、今なんだよ」
何というひどいことを言ったんだろう。
オレのことを気に掛けてくれるたっぴとりの人なのに。
「会社に勤めようかな」
「まだ諦めるのは早いってば」

「サキは気楽だよ」
そんな雑話だった状況が2人を包み込んだ時、サキが下した結論が、弘前市きだったのだ。
サキの実家が弘前市にあることは知っていたが、行ったことはなかった。
弘前市については、青森県にあるリンゴの名産地、くらしいのこししか知らなかった。
「いっしょに行く？」と誘ってきたのだが、断った。
東京でこそ、最先端の情報に触れられる。
世界と差のないアートがすぐれる。
田舎に行ったら、遅れてしまう。と心の底から思っていた。

オレが断ったら、荷物をまとめて、あつという間に弘前に引越して行ってしまった。
下北沢の駅で見送った。東京駅までも行かなかった。ごめん。
これでおしまいか、と思った時、サキから手紙が届いたのだ。

ヒロへ
元気にしてる？
ようやく春がやってきました。
弘前での生活にも少しずつ慣れてきました。
こちらでのゆっくり流れる時間は
ちよつと懐かしいです。
東京での生活も懐かしい。
ヒロとの生活も。
私なりに先のこと考えたとよ。

サキ

ヒロ。
弘前で待ってます。
またね

何度も何度も読み返したから、もうしわくちやになつた手紙をもう一度読み返し、なぞいた時、コトンと音がした。
店長がテーブルにリンゴを置いたのだ。
「これ、差し入れ。サキちゃんが送ってくれたんだよ。1箱も」
何という気遣い。この店にまでリンゴを送ってくるなんて。
その時、向こうで堅実に暮らしているサキの姿が浮かんだ。
しっかりしているなあ。
「店長、ありがとう」
店を出ると、夕焼けの雲が燃えていた。
そのバラ色に輝く空に向かって、オレはリンゴを投げた。
高く、高く。

つつく

脚注

注1 下北沢
東京都世田谷区にある、若者に人気のある街。私鉄が2路線乗り入れている下北沢駅を中心に商店街が広がっている。気軽に立ち寄れる飲食店や、雑貨屋、古着屋などの店舗が多数ある。演劇も盛んで、小劇場もたくさんあり、文化的な香りが高い街である。

注2 手紙
今やほとんどの人が、パソコンやスマホのメールですます時代になっているが、今回のサキのように、こゝ一番というような大事な時は、手紙という手段も見逃せない。手書きの文字は、うまい下手にかかわらず感情が伝わってくる。思い出に取っておけるのも利点。

注3 弘前市
青森県の南西部に位置する弘前市。ヒロサキと読む。豊かな自然に恵まれ、リンゴをはじめとする農産物の生産が盛ん。弘前藩の城下町として、政治・経済・文化の中心地として繁栄。現在も食文化、学園都市、観光など、津軽地方を代表する都市として発展している。

注4 移住情報
パンフレットやホームページ、facebookなどで弘前への移住を考えている人のために情報を提供しているほか、実際に移住した人のインタビュー映像や記事を掲載している。また、移住に関する住まいや仕事のことなど、「移住コンシェルジュ」が相談対応している。

注5 リンゴ
弘前市は、リンゴの生産量、日本一を誇る。種類も多い。まさにリンゴ王国。またリンゴは食べただけだけでなく、花もきれいなをこ存じだろうか。薄紅色のつぼみ、そして、白い花。春に咲くきれいなリンゴの花を見ることが、弘前ならではの楽しみといえるだろう。



《公開中》連続移住小説「ヒロとサキ」

▼「全国移住ナビ」の弘前市ページへ

<https://www.iju-navi.soumu.go.jp/onl/aomori/hirosaki/>

▼弘前市の「移住」ページへ

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/kurashi/ijuu/index.html>

移住コンシェルジュがサポートしていますので、お気軽にご相談を。移住体験ツアーや市内での説明会も行っています。

監督／玉田伸太郎 Shintaro Tamada

1983年弘前市生まれ。2009年多摩美術大学大学院美術研究科卒業後、制作表現を絵画から映像にシフトしてから現在はフリーランスの映像作家、映像ディレクターとして活動。代表作に、Gellers や寺尾紗穂のMV制作、シャムキヤップマンツアーへのVJ参加など、多岐にわたる。現在は東京在住。
<http://hanageboin.wix.com/shintarotamada>

撮影／植本一子 Ichiko Uemoto

2003年にキヤノン写真新世紀で荒木経惟氏より優秀賞を受賞。写真家としてのキャリアをスタートさせる。広告、雑誌、CDジャケット、PV等幅広く活躍中。2013年より下北沢に自然光を使った写真館「天然スタジオ」を立ち上げ、一般家庭の記念撮影をライフワークとしている。著書に「働けECD〜わたしの育児混沌記〜」(ミュージック・マガジン)「かなわない」(自費出版)がある。
<http://ichikouemoto.com>

音楽／トクマルシューゴ Shugo Tokumaru

東京出身。ギターと玩具を軸に無数の楽器を演奏する音楽家。作詞・作曲、アレンジ、レコーディング、ミキシングまでを自身で手掛ける。2014年末には段ボールプレイヤー付きレコード「Lita-Ruta」をリリース。2015年4月には、いっしんいっしん原作の舞台「あふみクーツェ」の音楽監督を務める。
<http://www.shugotokumaru.com>

制作／弘前市 Hirosaki City

ひろさき未来戦略研究センター 0172-40-7121



hiro&saki 移り住む先、弘前。

弘前在住のサキ

弘前市出身。大学進学で東京へ。栄養学を学び、食品メーカーに就職。ヒロと出会う。パンづくり、お菓子づくりが得意。もうすぐ30歳。弘前に帰るがヒロとの生活を考え、一軒家を借りる。



下北沢在住のヒロ

東京近郊出身。小さいころから絵を描くのが好きで、美術大学に進学。卒業後、美術学校の非常勤講師をしながら彫刻、インスタレーションを中心に活動。住んでいる下北沢で、サキと出会う。



Access 意外に近い、弘前までの交通手段

	東京(羽田空港)	1時間15分	青森空港	バス55分	弘前市
	東京駅	はやぶさ 3時間14分	新青森駅	特急つがる 27分	弘前市
	東京	品川・浜松町・上野	ノクターン号 9時間15分 スカイ号 9時間30分		弘前市

※ 東京から弘前までは意外に近い。ヒロはサキのいる弘前をめざす。